

図画工作科学習指導略案

5年1組 33名 指導者 藤谷 祐一郎

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 自分のイメージや表現したい方法を「見える図」で広げることは、自分の思いをより効果的に表現することにつながる手立てとして有効であったか。
- 協同的な「学び合い」で、それぞれの思いと表現の工夫について交流することは、友達の作品のよさに気付いたり、自分の作品を見つめ直したりする手立てとして有効であったか。

1 題 材 え？名前で絵（絵に表す）

2 指導計画（総時数4時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	1 参考作品の絵が名前でできていることに気づき、自分の名前の文字を変形したり色を使ったりしながら絵に表したいという思いをもつ。 【関：文字を変形したり色を使ったりしながら、絵に表していくことに関心をもち、取り組もうとしている。】 2 学習のめあてをとらえる。 名前の文字を基に発想を広げ、文字の形や色の使い方を工夫して、面白い絵に表そう。	1 (本時)
思いをふくらませます	3 自分の思いを広げ、名前の文字をアイデアスケッチし、文字の形や色の使い方を考える。 【想：名前の文字を絵に表すために、アイデアスケッチをしながら文字の形や色の使い方を考えることができる。】	
思いを表現する／自他のよさに気付く	4 自分の名前の文字を変形したり、自分の思いに合う色を考えてその組合せを試したりしながら、面白い絵に表す。 【技：文字を変形させたり、色の組合せを考えたりしながら、表し方を工夫することができる。】	2.5
新たな思いをもつ	5 自他の作品から、文字の変形の工夫や色のよさなどを感じ取る。 【鑑：自他の作品の文字の形、色のよさや美しさ、面白さを感じ取っている。】	0.5

3 本 時（1／4）

(1) 目標

名前の文字を面白い絵に表すために、自分の思いを効果的に表現する文字の形や色の使い方について考えることができる。

(2) 評価規準

- 文字を変形したり色を使ったりしながら、絵に表していくことに関心をもち、取り組もうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- 名前の文字を絵に表すために、アイデアスケッチをしながら文字の形や色の使い方を考えることができる。 【発想や構想の能力】

(3) 指導に当たって

これまでに、子どもは、想像した世界を絵に表現することを楽しみながら、その内容の色の組合せや表し方を工夫してきた。そこで、この題材においても、自分のイメージがうまく伝わるように、形や色の使い方を工夫して絵に表すようにしたい。

「思いをもつ」過程では、作品例や身近な企業のロゴなど文字を材料にしたデザインを見せて、形の変化や色の使い方注目させ、名前の文字を面白い絵にしたいという意欲を高めることができるようにする。また、題材名ボードを提示し、活動の見通しをもつことができるようにする。

「思いをふくらませる」過程では、同じ名前の二つのデザインを提示し、そこに感じるイメージの違いを出し合うことで、自分のイメージをもって、文字の形や色の使い方を工夫したいという思いをもつことができるようにする。また、「見える図（イメージマップ）」に自分の表したい思いや表現の仕方をかき、文字の形や色の使い方を具体的に考えることができるようにする。

「思いを表現する／自他のよさに気付く」過程では、作成した「見える図」を基に、アイデアスケッチをし、自分の思いを効果的に表す方法を試していけるようにする。また、グループでの協同的な「学び合い」の中で、友達の思いと表現の工夫について交流しながら、友達の作品のよさに気付いたり、自分の作品を見つめ直したりできるようにする。

「新たな思いをもつ」過程では、自分の思いと表現の工夫がうまく合ったアイデアスケッチを紹介したり、協同的な「学び合い」の中で考えたことを自分のアイデアスケッチに付け加えさせたりして、今後の活動への意欲を高めることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て・評価
思いをもつ	5	<p>1 参考作品と出会い、文字を材料にしたデザインの面白さを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の形が面白いな。 文字の大きさも違っていいな。 いろんな色が使って、楽しいな。 <p>2 本時の学習のめあてを立てる。</p> <p>文字の形や色の使い方を工夫して、名前の絵のデザインを考えよう。</p>
思いをふくらませます	12	<p>3 同じ名前の二つのデザインを提示し、違いを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の形が違うだけで、イメージが違うんだな。 色の使い方を工夫すると、面白い絵になりそうだな。 <p>4 「見える図(イメージマップ)」を使って、自分の表したい思いを広げ、文字の形や色の使い方を具体的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> やわらかい感じ→ひらがな 不思議な感じ→くねくね文字 かっこよく→カクカク文字 明るい感じ→黄色・赤の組合せ
思いを表現する／自他のよさに気付く	20	<p>5 作成した「見える図」を基に、アイデアスケッチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> かっこよくするために、ローマ字をカクカクにしてかこう。 やわらかい感じを出したいから、ひらがなを使って丸くかこう。 明るい感じにしたいから、黄色や赤を組み合わせるかこう。 暗い感じにしたいから、黒と灰色を組み合わせるかこう。 <p>6 グループでの協同的な「学び合い」で、友達の作品の面白さを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字をくねくねさせると、不思議な感じがするな。 なるほど、文字の大きさも変えると面白くなるな。 明るい感じは、黄色やオレンジを使うといいな。
新たな思いをもつ	8	<p>7 本時の学習を振り返り、自分の作品を見つめ直し、自分の工夫や友達のアイデアのよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の名前では、ローマ字を使った直線がかいてみたいな。 楽しい感じを出したいから、いろんな色を組み合わせよう。 文字の形が変わると、イメージが違ってくるもんだな。 <p>8 次時の活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の名前は、漢字を変形しよう。 次は、文字の大きさを変えよう。

教師がかいた作品や身近な企業のロゴを準備し、文字を材料にしたデザインの面白さを味わえるようにする。



題材名ボードを提示し、文字の形や色の使い方を工夫して名前前で絵をかくという目標をはっきりさせ、そのためにどんな活動をしていけばいいのかを考えることができるようにする。



同じ名前の二つのデザインを見せ、文字の形や色の使い方イメージが変わることに気付くことができるようにする。



今回は自分の名前ではなく、教師の名前でかくようにし、表したいイメージでデザインを考えることを確認する。



自分の表したいイメージから文字の形や色の使い方までを「見える図(イメージマップ)」に整理し、アイデアスケッチにつながるようにする。



作成した「見える図」を基に、アイデアスケッチを進めるようにする。その際、図工ノートをいくつか区切って、いろいろ試せるようにする。



※ 「見える図(イメージマップ)」を基に、アイデアスケッチをしながら、文字の形や色の使い方を考えている。

【「見える図」・図工ノート】

- 〇 表し方を工夫している子どもには、別なイメージや表現の仕方でもかくように伝える。
- 〇 活動が停滞している子どもには、黒板や横のボードにあるデザインを参考にして、自分の表したいイメージをはっきりさせ、一緒に考えるようにする。

自分の表したいイメージと、文字の形や色の使い方という観点で、グループでお互いの作品について話し合うようにする。



思いと表現の工夫がうまく合った友達の作品を紹介し、自分の活動を振り返らせることで、工夫できたところやこれから工夫したいところ、友達のアイデアのよさに気づき、お互いに認め合う関係を築くことができるようにする。



次時の活動を伝え、自分の思いを表す作品づくりへの意欲を高めることができるようにする。



図画工作